



2025年度 後期講座が 始まりました！

2025年度
後期講座が9
月末から始ま
りました。50
の講座・ワー
クショップが
準備されてお
り、1,552名
（延べ2,667

名）の皆さまに受講いただいています。内訳は、川崎市1,079名（中原区239、麻生区228、高津区163、宮前区163、多摩区137、幸区102、川崎区47）、横浜市217名、その他の県下28名、東京都区105名、都下99名ほか。

歌川広重「諸國六玉川・拙津構衣」より構成

後期講座の特徴をいくつか挙げると次のとおりです。

- ① 19講座でオンライン併用
- ② 13講座で野外学習あり
- ③ 後期限定開催のアジア航測との連携講座「赤の細道-赤色立体地図」は満員御礼にて締切
- ④ 川崎に関係する講座—自然Ⅰ、Ⅱ（川崎学）、歴史（川崎学）、学び・歩くかわさき、まち歩き（川崎学）、地域協働E企業連携

45の講座・WSで追加募集中!!

気にはなっていたもののまだ申し込んでいない講座はありませんか。

追加募集中の講座・WSはこちら ➡



太田猛彦理事長「みどりの文化賞」受賞記念講演会

今だからこそ、森林を考える ～森林・社会の変貌から考える、これからの森林管理～

第1回『森林飽和』と森林の多面的機能 11月15日（土）14時～15時30分

第2回 これからの森林管理に向けて 11月22日（土）〃

詳細はチラシご参照

会場：川崎市生涯学習プラザ4階401会議室（オンラインでも受講できます） 要事前申込み・参加費無料

アカデミーの最新情報は SNS でチェック ～ 口コミでの情報拡散もよろしくお願い致します！



当アカデミーでは、最新の講座情報やイベントのお知らせ、報告などを、facebook や X（旧ツイッター）の公式ページから発信しています。facebook、X をご利用の方は、是非、アカデミーの公式ページをご覧いただき、フォロワー登録をして下さい。以降、アカデミーからの“耳より情報”がお手元に届くようになります。

加えて、アカデミーからの投稿が届いたら、口コミでの情報の拡散をお願い致します。当アカデミーでの皆さまの体験を、皆様のご友人に共有ください。

当アカデミーの存続・繁栄には、受講生の確保・拡大が欠かせません。是非ともお力添えを！

**2025年度後期の
講座・WSの日程表の裏面にも
SNSの呼びかけをしています。
併せてご覧下さい。**



◆フォロワー登録の方法

facebook、X で「かわさき市民アカデミー」を検索して公式ページを開き、facebook は「フォローする」、X は「フォロー」のボタンをクリックすることで、フォロワー登録が完了します。

◆情報拡散の方法

facebook、X で「かわさき市民アカデミー」からの投稿記事を目にしたら、facebook では「シェア」、X では「リポスト」をクリックして、できればご自身のおススメコメントを添えて、皆さまのお友達に情報を共有ください。「いいね」も忘れずに！

2025 年度前期 運営代表世話人会議が開催されました

8月7日、プラザ3階会議室で開催されました。代表世話人28名の他、理事・参与および事務局職員、オブザーバーとして馬場学長、計40名が参加しました。

第1部では、理事会から、現在の経営概況として「2024年度は受講料の値上げを主要因として、3年ぶりの黒字(4百万円)を達成したが、今年度は引き続き延べ受講生人数の減少傾向は止まず、収支差額は1百万円程度の黒字と、ぎりぎりの収支が予想される。新規受講生紹介への一層のご協力をお願いしたい」との説明がありました。また、広報責任者からは「受講生拡大に向けての一策として、SNSを利用されている方に、アカデミーの公式ページのフォロワーとなり、掲載情報をリポスト(X)またはシェア(facebook)して頂きたい」との要請がありました。アカデミー受講の動機で最も多いのが「友人・知人からのお誘い」です。会社や学校の同期会での声掛けや居住マンションでのパンフレット掲示、チラシ・案内書の据置等、受講生の皆さまご自身のご協力を今後も是非共お願い致します。

第2部では、フリートークが行われました。①「会員制度・受講料納入方式」と②「WSのあり方」の2点を中心に活発な意見交換が行われました。①の会員制度については、そもそも現在の会員・聴講生の区分はアカデミー開設の際の、いわば「学制」をベースにしているもので、「専攻科目を決め、単位を取得し、修了を目指す学生(=会員)」と「フリーに様々な講座を受講する聴講生」の2区分という考え方を基にしていること、ところが昨年そうした区分を支える学校制度的な「修了制度」が廃止されたことから、そうした区分そのものを維持することは最早出来ないこと、などが説明され、全員一律「受講生」とするとの考え方が示され、概ね理解が得られました。受講料納入方式については、多くの講座を永年受講するという受講奨励制度としての現行の3区分方式を支持する意見が多く出されました。②のWSの問題については、受講者による意見交換などWSへの積極的参加により、知識の深掘りがなされるとか、講座では得られない「仲間づくり」が出来る等、その意義が確認されました。一方「なかなか入りづらい」とか「敷居が高い」等のWSを敬遠する声についての対応策等の意見交換もなされました。(事業推進部会)

単回受講へのお誘い

2023後期に試行を始めた単回受講制度ですが、当初「同一講座は1日程のみ受講可」としたものを、2024後期、2025前期と、その制限を撤廃する等、要項に改定を加えて、今の制度になっています。毎回アンケートをお願いしていますが、概ね好評で、アカデミーが、様々な「新たな知識との交流の場」になっていることを実感します。ちょっと垣間見た未知の領域が気になり、翌期その12回講座を受講してみたという方も多いのではないのでしょうか。

簡単に制度をご紹介しますと、受講生募集が終了

した後、定員に余裕があり、単回受講の受け入れに支障がない講座WSから、4日程内外の枠を申告して頂き、受講希望者は開催日の1週間前迄に申込み、当日受講料(2,000円)を支払い参加する、という制度です。詳しい要項や実施講座WSのリストはパンフレット(10/20頃完成予定)をご覧ください。

お申込みは、アカデミーのホームページから入力できます。パンフレットの最終ページにある「受講申込書」に記入して事務局にご提出(FAXも可)いただいても構いません。(事業推進部会)



訃報：NPO 初代理事長 東 昭 先生のご逝去

2007年4月に発足したNPO法人かわさき市民アカデミーの初代理事長(～2010年4月)を務められた東昭先生は、去る8月18日に亡くなられました。98歳でした。

東先生は一方で、長年にわたり「暮らしのなかの科学」などのコーディネーター・講師を務められ、科学系講座の発展に大いに寄与されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(10/1発行の特別号をご覧ください)



NPO 通信
第36号から



望月副学長からのひと言



副学長就任にあたって

副学長 川崎学担当 望月一樹

本年4月に、田中宣一先生の後任として副学長（川崎学担当）に就任いたしました。大変重い職であり分不相応であることは承知していますが、田中先生からのご要望もあり、またこれまでも少なからず市民アカデミーとは関りがありましたので、少しでもお役に立つのであればとお引き受けした次第です。

現在は、神奈川県立歴史博物館で館長を務めておりますが、昭和63年から平成29年までの約30年間は川崎市市民ミュージアムの学芸員として、川崎市域の歴史や文化について長年調査・研究をしておりました。また市民ミュージアムでは管理運営者であった川崎市生涯学習財団の職員であったこともあり、幾度か川崎学のカリキュラムの中で講師を務めさせていただきました。ふりかえると受講生の皆さん方は非常に熱心であり、かえってこちらの勉強不足を恥ずかしく思ったこともありました。



また講座自体も、受講生である市民の方々によって円滑に運営がなされていることにも驚いた次第です。

さて副学長となり、いまだ不明な点も多いのですが、さまざまな会議に出席しながら勉強中です。一方10月に入りますと、いよいよ25年度後期の講座も開講されますが、川崎学の各講座ではコーディネーターの方はもちろんですが、世話人の方たちに大変熱心に取り組んでいただいております。座学から野外学習まで講座内容もそれぞれに充実したものになっているのではないかと思います。

私も後期では「歴史（川崎学）」の1コマを、講師として担当いたします。それ以外でも、時折各講座に参加させていただきたいと考えています。微力ですが、市民アカデミー、川崎学のさらなる発展に尽力していきたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。もし講座などで見かけた際には、気軽に声がけください。



記録破りの猛暑をデータで実証 ～SDGs講演会・会場も熱く～

（公財）東京応化科学技術振興財団助成事業

9月13日『『沸騰する』地球～顕在化する地球温暖化と異常気象～』が川崎市生涯学習プラザで開催されました。高校生を含む約130名が参加。講師の東京大学名誉教授・気象庁異常気象分析検討会会長の中村尚先生による膨大な気象データを示しながらのわかりやすい語り口に、参加者は真剣な表情で聴き入りました。



2023年7月、世界的に過去最高の暑さを記録した際、国連のグテーレス事務総長は「地球沸騰の時代に入った」と記者会見で語りましたが、その後も毎年記録を更新。今年も観測史上最も暑い夏となりました。



その要因として①亜熱帯ジェット気流が北に偏って流れ、日本周辺で北に蛇行、②チベット高気圧の張り出しが顕著～そして、⑧全地球的な気温の上昇（地球温暖化）まで8つの要因があることを詳細なデータとともに解説がありました。

第2部、参加者からの数十枚もの質問表を踏まえた東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部教授の蔵治光一郎先生と中村先生の対談「将来のために私たちに何ができるのか」では、自らの責任をどのように考えたらよいのかについて重く受け止めた参加者が少なからずいたことが80枚にも及ぶアンケートから伝わってきました。



（担当理事 守田啓子）

丹羽正明先生ご逝去

8月26日、埼玉県の病院でお亡くなりになりました。93歳でした。1996年前期の講座「ヨーロッパの音楽はなぜ？」に始まり、2019年前期の「音楽鑑賞をめぐる12の小話」に至るまで、海老澤敏先生と共にアカデミーの音楽講座を支えて頂きました。軽妙な語り口と率直な物言いは受講生の間で評判を呼び、2004年前期の「シンフォニーの歩み」では受講者数337名を記録しました。2022年にお願いした特別講座「丹羽正明が語る『音楽批評家の仕事』」での変わらぬ颯爽としたお姿が今も儼に残っています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



（担当理事・重藤和義）

「ジャーナリストの感覚を併せ持つ」 音楽担当コーディネーター 梅津時比古

丹羽正明氏は東大在学中に当時の『音楽芸術』誌に「音楽批評を書かせて欲しい」と求め、批評家としての履歴をスタートさせた。背景には、長く言われてきた日本の音楽批評の不在があった。当時、批評の大体は好事家が欧米で仕入れた音楽知識の啓蒙であった。その結果、批評は常に高踏的で、タニマチ的な趣きを具えていた。それに対し、丹羽氏は、欧米の知識の披露に傾かず、また世界的に功成り名を遂げた演奏家だけを対象とせず、当時としては珍しく、日本の才能ある若手を積極的に批評した。しかも読売新聞など大手のマスメディアで取り上げた。これは、丹羽氏がジャーナリストの感覚を併せ持っていたことに由来する。事実、氏は書斎を離れ、ホールの運営・企画などにも積極的に関わった。総体的に日本の音楽界を盛り上げた功績には非常に大きなものがある。

「大きな星が亡くなってしまった」

受講生 菊谷泰夫

私は昔先生がNHKで音楽番組を担当されていた頃、家内と共に大ファンで番組を楽しみにしていましたが、近年市民アカデミーで直接講義を聴く機会が出来、而も私はお世話役として講義のあとに控室で色々お話を聞く機会に恵まれ、音楽の事のみならず、広範囲に先生の豊富且つ闊達なお話をお聞きし、ついには先生も私同様落語がお好きと判り、故古今亭志ん生や末広亭等楽しく語られ、更には体調の悪化などもお話し頂くなど大変貴重な思い出となりました。

素晴らしく魅力的な大きな星が亡くなってしまったことに、未だ納得出来ない思いで私はいます。

「講座は至福の時間だった」

受講生 櫻井あけみ

リッチな音楽講座をふと思い出した数日後、悲しい訃報を聞いた。

世話人ゆえ色々お話を聞けたが、講座時間は受講生にとって至福の時だったと思う。好き嫌いははっきりおっしゃる。好きな演奏家、バレンボイム、アルゲリッチ。好きになってしまった。嫌いとは「僕はね、××が嫌いなんです！」と講座中にオンマイクで。聞いているほうが冷や汗。私もそのピアニストが嫌いに。困ったもんです先生。



ルービンシュタイン

学生時代、ルービンシュタインに会ったエピソードと撮った写真は最高、プロのセンスだった。

ダンディ丹羽を再認識したのは、ミューザのコンサートへ行った時。お茶をしたカフェで偶然お会いした。ここは海外のカフェ？見まがうほど決まっていた。

編集後記

NPO 初代理事長の東昭先生、音楽の講座を長く担当された丹羽正明先生が8月に亡くなられました。私は直接教えていただく機会はありませんでしたが、アカデミーにとってなくてはならない両先生だったと聞いています。ご冥福をお祈りいたします。

さて、暑くて長い夏もやっと終わり、後期講座が始まりました。興味深いたくさんの講座が待っています。そして受講生の方々との再会もほんとにうれしいですね。体に気を付けながら、講座を楽しみましょう！（T.T.）

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報・地域連携部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話 044-733-5590

HP はこちら↓

FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

info@kawasaki-c-academy.jp

https://kawasaki-c-academy.jp/

